

# 1. 堺臨海部再生・創造ビジョンについて

## 1.1 ビジョンの背景・目的

### (1) 歴史経過

堺のみなとは、中世以降、世界各国との交易が盛んに行われ、人・物・情報が行き交う国際貿易都市として繁栄し、「もののはじまりなんでも堺」の原点として栄えてきました。昭和に入り臨海工業地帯が造成、生産・エネルギー基地として堺のみならず近畿の経済発展に大きく貢献し、近年はグリーンベイと呼ばれる先端・環境産業の集積が進むなど世界をリードする産業拠点に変貌しつつあります。さらに、京阪神圏の広域的な防災拠点（基幹的広域防災拠点）としての耐震強化岸壁や大阪都市再生環状道路の一部となる大和川線の整備が進み、物流・交通機能の利便性が飛躍的に向上することから、更なる産業・物流拠点としての発展が期待されます。



出典：堺市立図書館 HP より

図 南蛮貿易で賑わう堺のみなと



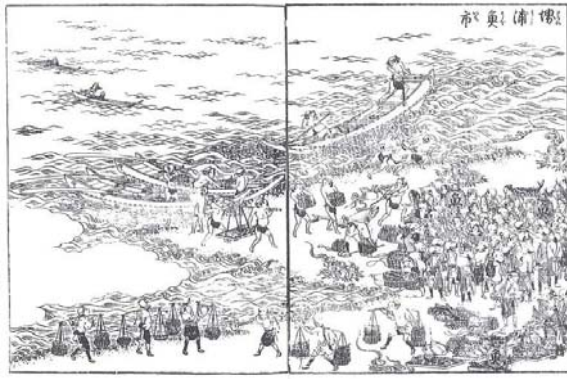
出典：堺市立図書館 HP より

図 泉州堺港新地繁栄之図  
(天保7年(1836年)頃)



図 グリーンフロント堺（現況）

また大阪湾は淀川、大和川などの河川が流入しており、餌料生物が豊富で、かつて、茅渚の海と呼ばれるほどの昔から有数の生産性の高い好漁場で、鎌倉時代から「大魚夜市」の行事が伝わるなど漁業の根拠地としても発展してきました。



出典：堺市立図書館 HP より

図 鎌倉時代から続く大魚夜市の風景

このほか、室戸台風、ジェーン台風、第二室戸台風など過去に幾度となく受けてきた高潮の被害を教訓に、背後に集積する人々の生命、財産を守るため、防潮堤等の海岸保全施設の整備が進められ、安全・安心な市民生活を支えています。



出典：堺市立図書館 HP より

図 昭和 25 年ジェーン台風による被害



図 海岸保全施設（現況）

## (2) 現状

堺臨海部は、国際交易・産業・防災の面で、市域のみならず近畿の発展に貢献してきた一方で、埋立や直立護岸化により、昭和初期までの白砂青松が広がる大浜や浜寺の海岸における海水浴・潮干狩り・夕涼み、水族館や潮湯などが立地する一大リゾート地としての賑わいや憩い・癒しが感じられなくなり、沿岸部の幹線道路による分断もあり、市民と海との触れ合いが疎遠になりました。



出典：堺市立図書館 HP より

図 潮湯・海水浴場



出典：堺市立図書館 HP より

図 水族館

また、砂浜・干潟の消失、埋立に伴う海底の深堀により、海の浄化能力の低下、貧酸素水域の発生、生物の生育の場の消失といった課題も生じています。そこで、**海辺の景観を改善し、堺旧港や旧堺燈台などの歴史・文化資源を観光・集客に更に活かしていく必要があります。**

一方では、残された臨海部の公有地の有効活用による市の更なる発展、貴重な公有水面の保全のための海面廃棄物処分場の延命、循環型社会や低炭素社会、生物多様性をめざす自然共生社会の形成に向けた役割や貢献も臨海部には期待されています。

このように、これまで堺の発展のエネルギーや生活の恵みは海からもたらされてきたことから、今後とも、**高齢社会の到来や人口減少社会への移行に伴う人々のニーズの多様化に対応し、また都市の活力・魅力を高め、市民の満足度や来訪者の増加を図るためには、海辺をどのように活用していくかが、大きな課題の一つです。**

このため、産業・物流機能の維持・拡大を図りつつ、臨海部のポテンシャルを活かした様々な施策を展開し、魅力あるウォーターフロントを形成することにより、**市民に海辺を開放し、来訪者を含めた交流を拡大させ、また人や生き物、環境にやさしい海辺とするなど、臨海部の活性化（交流人口拡大・雇用創出・税収拡大等）を図ることが、本市の持続的発展には必要です。**

### (3) 目的

「海から発展してきた堺市」という歴史経過を踏まえ、臨海部の諸課題・要請事項への対応を通じて臨海部の活性化を図るため、**由緒ある堺の歴史・文化資源と近年のグリーンベイとよばれる環境・先端産業の集積や J-GREEN 堺などの新たな資産との融合を図りつつ、政令指定都市にふさわしい魅力溢れる堺臨海部の将来のあるべき姿、施策の方向性等を示したビジョンを策定するものです。**



## 1.2 ビジョンの位置づけ及び効果

堺臨海部は、低未利用な状況にある公有地の利活用、海域や海辺の公共用水域での自然環境の再生・創造、市民・来訪者のための親水空間の確保など、公が先導的な役割を果たしながら、まちづくりや活性化に向けた施策を展開すべき地域です。

また、実現にあたっては、国・大阪府・市民・企業・NPO など多様な主体に働きかけながら、適切な役割分担のもと施策を展開していく必要があることから、本市が率先してまちづくりを進めていく必要がある地域でもあります。

このため、本ビジョンは各種上位計画や関連計画を踏まえ、本市が主体的に取り組むべき施策を示すとともに、多様な主体への提案・働きかけを行う礎となるもの、臨海部での活性化の取組みの効果を市全体の活性化に波及させていくものです。

本ビジョンの展開により、活力・賑わい・憩い・癒し・潤いのある堺の海辺・みなとを再生・創造することにより、海から発展した都市として、堺の歴史・文化を後世に継承するとともに、都市の活力・魅力向上、産業・観光・漁業の振興推進、循環型社会・低炭素社会の構築、自然共生社会の形成、大阪湾の再生、子どもの健全な育成に寄与していくものです。

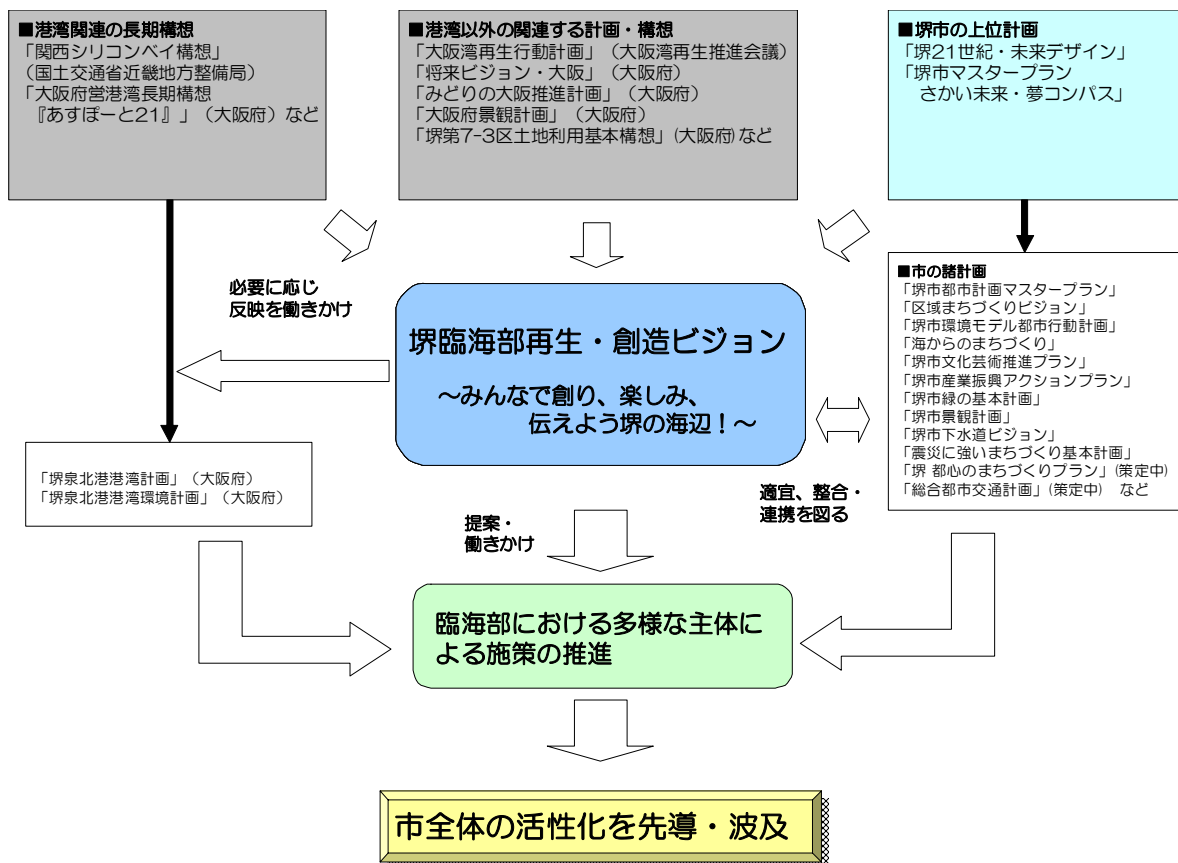


図 ビジョンと各計画の関連性

表 堺臨海部活性化により期待される効果

項目	内容
都市の活力・魅力向上、環境共生都市の実現への寄与	臨海部の環境再生・創造を図ることにより、賑わい、憩い、癒しなど活力・魅力ある「海から発展した堺」が再現され、また、低炭素社会・循環型社会の促進により環境共生都市・堺の実現に寄与する。
産業振興への貢献	臨海部の環境改善を図り来訪者を増加させることによる商業施設の立地、また、アクセス改善や遊休地の有効活用・高度利用を可能とすることにより、企業立地が促進されるなど産業振興に貢献する。
観光振興への貢献	臨海部の環境改善による憩い・癒し空間の整備、新たな賑わい拠点・産業と堺の歴史文化資源との融合により、海から発展した堺を再現し、更なる観光振興に貢献する。
漁業振興への貢献	干潟・浅場・生物配慮護岸の整備、深堀の改善により、稚魚などの生物の生息空間が確保され、また、貧酸素水塊の解消、水質改善が進み、漁業振興に貢献する。
市民の憩いの場や子どもの健全育成への貢献	干潟・浅場での海を眺め、海や生き物との触れ合いや環境学習を通じて、豊かな感性と情操を育み、次世代を担う子どもの健全な育成に貢献する。

## 1.3 ビジョンの構成及び対象範囲

### (1) ビジョンの構成

本ビジョンは堺臨海部全体の基本理念・将来像・基本方針の下に、地区別の活性化方策、施策展開、取り組むべき事項を示すものです。

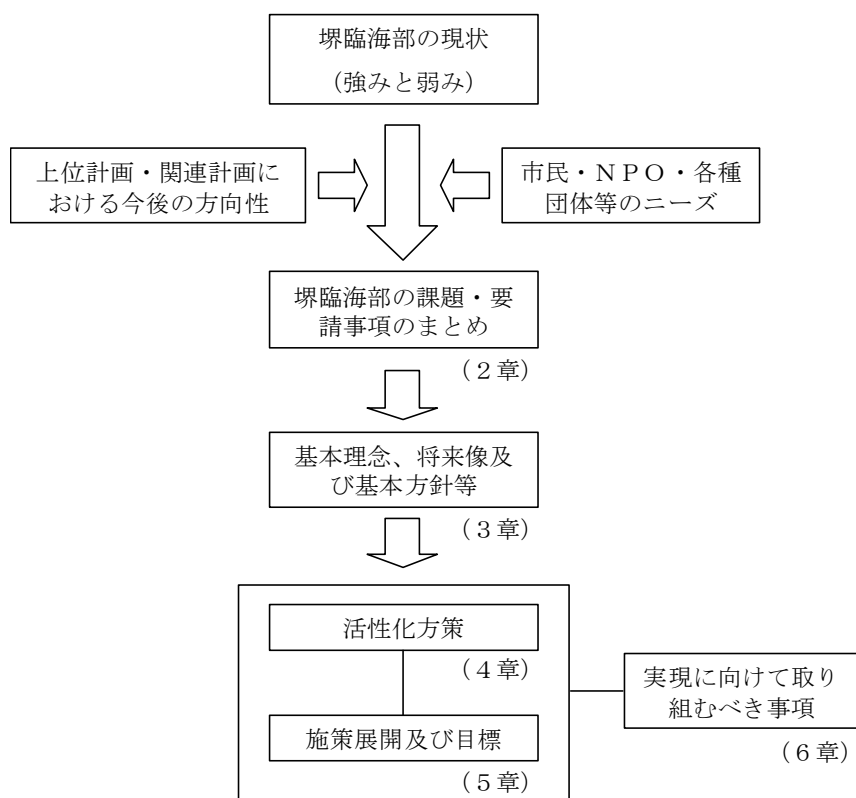


図 ビジョンの構成

## (2) 対象地域

堺臨海部は、近年、グリーンフロント堺・J-GREEN 堺・堺太陽光発電所などが立地し、一定の活用が図られてきました。今後は、残された未利用地や海域をこれら新たな資産と旧堺燈台等の歴史・文化資源を融合させつつ、更なる活性化（賑わい・憩い）を図ることが重要です。

本ビジョンは、以下に示す堺臨海部全域を対象とします。

また、以下の理由により、堺旧港及び周辺地域、堺浜北泊地及び周辺地域、堺第7-3区低未利用地、浜寺水路及び周辺地域を重点対象地域としました。



※航空写真は大阪府より提供

図 ビジョンの対象地域

※ 以降、堺旧港及び周辺地域を「堺旧港」、堺浜北泊地及び周辺地域を「堺浜」、堺第7-3区低未利用地を「堺第7-3区」、浜寺水路及び周辺地域を「浜寺水路」、その他の臨海部地域は「その他の臨海部」と称します。

## <重点対象地域の選定理由>

### ➤ 堺旧港

堺旧港の親水護岸整備、旧堺燈台や大浜公園の多様な歴史文化資源など観光資源を有しているが、中世以降のみなとの賑わいや昭和初期までの一大リゾート地としての面影がなくなっている。堺旧港に隣接した未利用の市有地が残され、都心近傍や海辺という立地特性、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けた取組みや旧市立堺病院跡地で計画されている文化観光拠点との連携、多様な観光資源を生かした土地活用が必要である。また昔ながらの形状が保存されている堺旧港を活用して港の再興を図る必要がある。

### ➤ 堺浜

J-GREEN 堺、グリーンフロント堺、商業アミューズメント施設、基幹的広域防災拠点（海とのふれあい広場を含む）などの賑わい・憩い施設の立地が進捗、幹線道路の整備により市街地からのアクセスも一段向上。しかし、北泊地周辺には未利用地が残され、既存施設の更なる活性化に寄与、また連携した土地活用が必要である。また、人工干潟の整備が進むものの、北泊地は広大かつ静穏な海域で大和川汽水域に位置しているが、深堀跡のため水質が依然と悪いことから、北泊地の水域利用、自然・水質環境の改善が必要である。

### ➤ 堺第7-3区

共生の森、堺太陽光発電所、エコタウン、みなと堺グリーンひろばなど土地活用が進むものの、廃棄物処分場またはその跡地としての制約などにより広大な未利用地が残され、既存施設の更なる活性化に寄与また連携した土地活用が必要である。また、親水性・景観に乏しい長大な消波護岸の利活用・環境改善が必要である。

### ➤ 浜寺水路

浜寺公園に隣接し、階段式護岸の整備が完了しているものの、親水性が不十分なため、公園来訪者が海辺に訪れることが少なく、深堀跡のため水質が依然と悪いことから、親水性の向上・水質改善が必要。また、阪堺電気軌道の利用促進の観点からも浜寺水路の賑わい創出などの活性化が必要である。

なお、上記以外の臨海部については「その他の臨海部」と位置づけた。



### (3) 対象とする事項

一般に、臨海部には多様な機能（物流・産業・環境・交流・防災・住居など）が求められていますが、本ビジョンでは、海辺の憩いや賑わい創造、自然環境の再生・創造に焦点を当てることとしました。

- 環境再生・創造、土地活用に係るハード施策  
（自然環境・親水整備、アクセス整備など）
- 賑わい創出や環境創造・市民活動促進に係るソフト施策  
（交流・レクリエーションに係る事業者の誘致、イベントの開催、環境研究・学習・啓発活動・市民・NPO活動の推進、低炭素社会・循環型社会形成に関連する施策提案、関係者への環境配慮などの提案など）

以上の施策により、市民や来訪者が主役となり、活動や体験を持続的に展開できる 21 世紀型の海辺をめざします。

なお、臨海部の有する機能のうち、物流・産業・広域交通・防災などの機能については、既定または今後策定予定の各施策と整合・連携を図ることとします。

### (4) 対象者及び推進主体

本ビジョンにおける主な対象者及び推進主体は、以下のとおりです。

- 主な対象者
  - ・ 散策・レクリエーション・スポーツ・環境活動等で訪れる市民、NPO、子どもたち
  - ・ 近隣府縣市等の国内からの来訪者・観光客
  - ・ 関西国際空港等を利用し、関西・堺へ訪れる海外からの観光客
- 主な推進主体
  - ・ 堺市
  - ・ 立地企業
  - ・ 国・大阪府・港湾管理者
  - ・ 土地所有者
  - ・ 大学・研究機関
  - ・ 進出事業者
  - ・ 市民・NPO
  - ・ 各種団体(自治会組織、漁業関係団体)

## 1.4 ビジョンの目標年次

本ビジョンは、概ね 20～30 年先の長期の堺臨海部のあるべき姿を示すものとしますが、具体的な活性化方策については、堺市マスタープラン、都市計画マスタープランなど市の基本的な計画との整合を図るため、概ね今後 10 年間の施策を示します。

なお、策定後の社会情勢の変化などに対応し、適宜見直しを図るものとします。